

「シーオ」の田んぼで 出会う生き物



田植えの様子

6月4日(日)、シーオそだて隊のイベントで、ビオトープ「シーオ」の田んぼにイネの苗を植えました。イネの成長に伴い、田んぼで出会える生きものも変化します。6月は様々な生きものがこどもからおとなへ大変身の真っ最中！池では、オオアオイトト



オオアオイトトトンボの羽化

ンボの羽化が始まりました。ヤゴが水草にのぼって殻を脱ぎ変身。からだがある程度硬くなると暗めの林に移動し、メタリックグリーンに変化します。池や田んぼにいるオタマジャクシの何匹かには後ろ足が出てきました。この後、前足が出て、尾が短くなり、

大きな口へと変わってカエルの姿に変身します。この姿が見られるのは7月くらいまで。この機会にじっくりと観察してみてください。

シーオささえ隊
募集中！

7月9日(日) 10~11時には、シーオそだて隊「セイタカアワダチソウを抜いちゃおう！」(当日先着20名)を、8月24日(木) 13時半~15時には、シーオの管理作業を体験し、活動を支える「シーオささえ隊」の説明会を開催します。詳細はこちら。



シーオそだて隊



シーオささえ隊

桜環境センターの 利用団体紹介

おせっかい倉庫 フードパントリー 浦和西

始まりは小規模から

おせっかい倉庫フードパントリー浦和西では、月1回程度、さいたま市南区と桜区で、市民や企業などから提供された食料品などを登録した世帯にお渡しする「フードパントリー」を開催しています。

2020年、代表の鈴木弘子さんがパントリーを始めた当初は5人ほどのボランティアで、利用者は

13世帯。それが今では50世帯、ボランティアは20人を超えるまでになりました。

地域で開催できる環境を

市内には今、13の子育て

応援フードパントリーがあり

ますが、桜区と緑区には

まだありません(2023

年6月現在)。各区にひとつの

フードパントリーがあれば、

顔が見える関係で必

ず、月に1回でも手伝っ

てくれる人がいたらありが

たいそうです。

要な人に届けられます。鈴木さんたちは、「さいたま市フードパントリー連絡会」を立ち上げて行政に協力を依頼するなど、横のつながりも強めています。立ち上げのノウハウもあり、必要があればアドバイザーの派遣もできるので、同志からの連絡をお待ちしています。車を持つ配送ボランテアも不足しているので、月に1回でも手伝ってくれる人がいたらありがたいです。*****



シーオささえ隊

知っているようで知らない
番外編

【ごみの正しい出し方】

発火の危険



4月、桜環境センターのリサイクルセンターでアルミ選別機の火災が起きました。「もえないごみ」に混ざっていたリチウムイオン電池が発火したものです。

リチウムイオン電池のほかに、スプレーかんがもえないごみに混ざっている場合も発火の原因になります。ごみ処理施設で火災が発生すると、長期にわたりごみの受け入れができなくなる恐れがあります。



スプレーは使い切って 透明な袋に入れて出す

スプレーかんをごみに出す際は、中身を使い切り「有害危険ごみ」の日にスプレーかんだけを透明な袋に入れます。中身が残る場合は、袋に「中身あり」と書いた張り紙をつけてください。

ご自身で穴あけをすると爆発の危険がありますので、絶対に行わないでください。



どうしても中身の 残ってしまった スプレーかんは紙を張る